

- 問1 北海道二セコ町の月別外国人宿泊者数は12月から3月にかけて突出して多く、産業別の就業者数割合では飲食業・宿泊業が17.8%で最も高い数値を示しています。これらのデータから読み取れる地域の特徴として、最も適切な記述を選びなさい。（2026年 岩手県公立入試 類似）
1. 夏季の観光需要の高まりに合わせて外国人観光客が集まるため、年間を通じて農業の就業者数が最も多い。
 2. 外国人観光客の宿泊が夏場に集中しているため、冬場は観光関連産業の就業者が減少し農業へ移行している。
 3. 全国の平均と比較して製造業の就業者割合が極めて高く、外国人観光客は年間を通じて均等に宿泊している。
 4. ウインタースポーツを目的とした外国人観光客の増加に伴い、飲食・宿泊関連の産業が町の中心的な雇用を生み出している。
- 問2 1997年に施行された「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律（アイヌ文化振興法）」が、それ以前の政策から大きく転換した点について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2023年 長野県公立入試 類似）
1. アイヌの人々に対して金銭的な補償を行うことで、すべての歴史的課題を解決する方針に転換した。
 2. アイヌの人々を独自の文化を持つ集団として認め、伝統や言語の振興を支援する方針に転換した。
 3. アイヌの人々を日本人に同化させることを目的とし、日本語教育を義務づける方針に転換した。
 4. アイヌの人々の居住地を北海道に限定し、伝統的な狩猟や漁業の権利のみを保障する方針に転換した。
- 問3 かつての石狩平野の自然環境と、その土地で行われた開発の背景について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2021年 神奈川県公立入試 類似）
1. 植物の遺体が分解されずに堆積した農業に適さない湿地帯であったため、排水や客土による土地改良を行った。
 2. 火山噴出物が堆積した水はけの良すぎる土地であったため、大規模なかんがい施設を整備して畑作を行った。
 3. サンゴ礁が隆起してできた保水力のない土地であったため、地下ダムを建設して農業用水を確保した。
 4. 海岸近くの浅瀬を堤防で囲んで干し上げた土地であったため、塩害を防ぐための用水路整備を優先した。
- 問4 世界遺産に登録されている知床では、多くの観光客が訪れる一方で、自然環境を破壊しないための対策が取られています。湿原や高山植物が広がるエリアに「木道」が設置されている主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 千葉県公立入試 類似）
1. 大雨が降った際に地面の侵食を防ぎ、土砂が海へ流出するのを食い止めるため
 2. 周辺の森林から切り出された木材の輸送を効率化し、地元の林業を活性化させるため
 3. ヒグマなどの野生動物が、人間の歩行ルートに侵入できないように物理的に遮断するため
 4. 観光客が地面を直接踏み固めて、貴重な植物の成長を妨げないようにするため
- 問5 日本の都道府県別の統計において、北海道の耕地面積は全国の約25%という広大な面積を占めていますが、農業産出額の全国シェアは約13.5%となっています。この数値の比較から読み取れる、北海道の農業の特徴として適切なものはどれですか。（2021年 兵庫県公立入試 類似）
1. 耕地面積は非常に広いが、農業産出額の合計は全国の都道府県の中で最も低い水準にある
 2. 耕地面積の割合よりも、農業産出額の全国シェアの方が高くなっている
 3. 耕地面積と農業産出額のどちらも、全国の約半分以上を占める圧倒的な規模である
 4. 広大な耕地面積を有しているが、面積の割合に比べると農業産出額の割合は低くなっている
- 問6 北海道の南東部に位置する十勝平野では、その広大な土地と冷涼な気候を活かした大規模な農業が行われています。この地域における農業の特色を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 和歌山県公立入試 類似）
1. 豊かな水資源を利用した大規模な稲作が行われ、米の単作地帯となっている。
 2. 大消費地に近い立地を活かして、ビニールハウスを用いた施設園芸農業が行われている。
 3. 輪作を中心とした大規模な畑作が行われ、あわせて酪農も盛んである。
 4. 温暖な気候を利用して、冬でもレタスなどの野菜を栽培する促成栽培が行われている。
- 問7 北海道の酪農において、近年の統計で見られる「飼育戸数が減少しているにもかかわらず、全体の生乳生産量が増加している」という現象の背景にある、生産体制の工夫を説明する用語の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2021年 熊本県公立入試 類似）
1. 地産地消と手作業の重視
 2. 施設園芸農業と有機栽培
 3. 減反政策と多角経営
 4. 経営規模の拡大と機械化
- 問8 札幌市の気候の特色を、本州の都市と比較して説明したものとして、最も適切な内容を選んでください。（2023年 福井県公立入試 類似）
1. 日本海流の影響を強く受けるため、1月の平均気温は氷点下にはならず、年間を通じて降水量が平均化されている。
 2. 季節風の影響で冬の降水量は本州の日本海側より多いが、夏季は太平洋高気圧の影響で非常に高温多湿となる。
 3. 1月の平均気温が氷点下となる一方で、梅雨前線の停滞により初夏の降水量が本州の都市よりも多くなる。
 4. 緯度が高いため1月の平均気温が氷点下となり、梅雨や台風の影響が少ないため夏季の降水量が本州に比べて抑えられている。
- 問9 北海道西部に位置する石狩平野は、かつて植物の遺体が十分に分解されずに堆積した「泥炭地」と呼ばれる湿地帯が広がっており、農業には不向きな土地でした。この地域において、他の土地から土を運び入れる「客土」などの土地改良が行われた結果、現在ではどのような農業が盛んに行われていますか。（2024年 徳島県公立入試 類似）
1. 十勝平野で見られるような大規模な畑作
 2. 冷涼な気候を活かしたリンゴなどの果樹栽培
 3. 根釧台地で主流となっている大規模な酪農
 4. 大規模な機械化による水田稲作
- 問10 旭川市周辺において、昭和から平成にかけて田畑や空き地が住宅地や発電所へと変化した現象について、その背景にある社会的な要因として最も適切な説明はどれですか。（2016年 京都府公立入試 類似）
1. 自然環境を保護するために、市街地の面積を昭和初期の規模にまで縮小させたため。
 2. 食料自給率を向上させるために、都市部の建物を壊して農地を拡大する政策がとられたため。
 3. 交通網の衰退により、郊外からの人口流出が激しくなり、土地が放置されたため。
 4. 都市化の進展に伴い、居住空間の確保やエネルギー供給の必要性が高まったため。
- 問11 北海道の農業産出額の構成において、畜産の占める割合が5割を超え、米の割合を大きく上回っている理由として最も適切な説明はどれですか。（2016年 岩手県公立入試 類似）
1. 平地が少ないため、傾斜地を利用した果樹栽培が盛んに行われているため
 2. 大消費地に近い利点を活かして、野菜の生産を最も重視しているため
 3. 広大な土地を活かして、乳牛などの大規模な飼育が行われているため
 4. 冷涼な気候を活かして、米の生産に特化した大規模農業が行われているため
- 問12 北海道の東部に位置する太平洋沿岸の地域では、夏に「濃霧（海霧）」が発生し、日照不足などの影響を与ることがあります。この現象が発生するメカニズムの説明として、最も適切なものはどれですか。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 南東からの湿った季節風が、暖流である対馬海流の上を通る際に温められるため。
 2. 南東からの湿った季節風が、寒流である親潮（千島海流）の上を通る際に冷やされるため。
 3. 北西からの乾燥した季節風が、暖流である黒潮（日本海流）の上を通る際に温められるため。
 4. 北西からの湿った季節風が、寒流であるリマン海流の上を通る際に冷やされるため。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 ウインタースポーツを目的とした外国人観光客の増加に伴い、飲食・宿泊関連の産業が町の中心的な雇用を生み出している。	二セコ町では、12月から3月という冬の時期に外国人宿泊者数が突出して多くなっています。これは良質な雪を求めて訪れるスキー客などの影響であり、それに伴って飲食業や宿泊業の就業者割合が最も高い水準となっています。
問2	答え 2 アイヌの人々を独自の文化を持つ集団として認め、伝統や言語の振興を支援する方針に転換した。	それまでの「北海道旧土人保護法」は、アイヌの人々を日本人の中に同化させることを目指した法律であり、アイヌ独自の文化や言語は否定される傾向にありました。アイヌ文化振興法の制定は、そうした同化政策から、多文化共生社会の実現に向けて、アイヌ独自の民族的誇りや文化的多様性を尊重する方針へと舵を切った重要な転換点となりました。
問3	答え 1 植物の遺体が分解されずに堆積した農業に適さない湿地帯であったため、排水や客土による土地改良を行った。	石狩平野の開拓における最大の課題は、泥炭地と呼ばれる湿地帯の克服でした。泥炭地は植物が腐敗しきらずに積もったもので、そのままでは農業に適さないため、水を抜くための排水技術と、別の場所から土を運び入れる客土という高度な土地改良技術が組み合わされました。他の選択肢にある「火山噴出物の土地」はシラス台地、「サンゴ礁の土地」は沖縄・南西諸島に関する記述であり、石狩平野の歴史的背景とは異なります。
問4	答え 4 観光客が地面を直接踏み固めて、貴重な植物の成長を妨げないようにするため	知床のような貴重な自然環境では、観光客が自由に歩き回ると足元の植物が踏み荒らされたり、土壌が踏み固められて植物が育たなくなったりする「踏みつけ」の被害が発生します。木道を設置することで観光客の動線を限定し、環境保護と観光利用の両立（エコツーリズム）を図っています。
問5	答え 4 広大な耕地面積を有しているが、面積の割合に比べると農業産出額の割合は低くなっている	北海道の耕地面積は約1,147千haであり、全国の約4,496千haに対して約4分の1（25%）を占めています。一方で、農業産出額は約1,185十億円であり、全国の約8,798十億円に対して占める割合（シェア）は約13.5%にとどまります。このことから、北海道の農業は一戸あたりの経営規模が非常に大きいものの、単位面積あたりの収益性が高い施設園芸農業（ビニールハウス栽培）などが盛んな都市近郊の地域などと比べると、面積シェアに対する産出額シェアは低くなる傾向にあります。
問6	答え 3 輪作を中心とした大規模な畑作が行われ、あわせて酪農も盛んである。	北海道の十勝平野は、日本を代表する畑作地帯です。1戸あたりの耕地面積が非常に広く、大型機械を導入した大規模な農業が展開されています。ジャガイモ（馬鈴薯）、てんさい（ビート）、豆類、小麦などを組み合わせた畑作のほか、乳牛を飼育して生乳を生産する酪農も組み合わせられているのが大きな特徴です。
問7	答え 4 経営規模の拡大と機械化	酪農家1戸あたりの飼育頭数を増やして効率を上げる「経営規模の拡大」と、搾乳ロボットなどの導入による「機械化」が組み合わせることで、労働負担を軽減しながら高い生産性を確保しています。統計上でも、100頭以上の大規模な飼育戸数の増加や、搾乳ロボットの普及率の劇的な上昇にその傾向が表れています。
問8	答え 4 緯度が高いため1月の平均気温が氷点下となり、梅雨や台風の影響が少ないため夏季の降水量が本州に比べて抑えられている。	札幌市が位置する北海道は、日本の最北部に位置するため1月の平均気温が氷点下になるという厳しい寒さが特徴です。また、本州以南とは異なり、梅雨の影響をほとんど受けず、台風の通過も相対的に少ないため、夏季の降水量が本州の主要都市に比べて少なくなるという背景があります。
問9	答え 4 大規模な機械化による水田稲作	石狩川の下流に広がる石狩平野は、もともとは水分を多く含み農耕に適さない泥炭地でした。明治時代以降、排水路の整備や客土といった大規模な土地改良事業が進められたことで、日本有数の米の生産量を誇る水田地帯へと生まれ変わりました。北海道東部の十勝平野が畑作、根釧台地が酪農の中心である点と区別する必要があります。
問10	答え 4 都市化の進展に伴い、居住空間の確保やエネルギー供給の必要性が高まったため。	旭川市における土地利用の変化は、日本の多くの地方都市で見られた都市化のプロセスを反映しています。昭和後期から平成にかけて、都市の規模が拡大する中で、かつて農業に使われていた土地や未利用地が、人々の生活の場（住宅地）や社会インフラ（発電所など）へと転換されました。これにより、地域の経済活動や住民の利便性が向上した一方で、周辺の自然景観や農地が減少するという側面も持っています。
問11	答え 3 広大な土地を活かして、乳牛などの大規模な飼育が行われているため	北海道の農業は、1戸あたりの耕地面積が非常に広く、機械化された大規模な経営が特徴です。特に、稲作が困難な地域も含め、広大な草地を利用した酪農（乳牛の飼育）が全域で盛んに行われているため、産出額に占める畜産の割合が突出して高くなります。「米の割合が高い」あるいは「野菜の割合が高い」といった他の地域の構成とは、土地利用の規模の面で大きく異なります。
問12	答え 2 南東からの湿った季節風が、寒流である親潮（千島海流）の上を通る際に冷やされるため。	日本の夏は、小笠原気団から湿った南東の季節風が吹き込みます。この風が、北海道の東の海域を流れる寒流（冷たい海流）である親潮（千島海流）の上を通る際、海面に冷やされて空気中の水蒸気が水滴になることで濃霧が発生します。この霧は日照時間を減少させ、気温の上昇を妨げる要因となります。